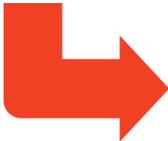


第三者委員会としての 選定方面について

第三者委員会としての選定方面について(案)

第三者委員会の判断

- ① 筑波山方面は、集客力のある大学や病院などがルート上にあるものの、「つくばと水戸の交流拡大」や「JR常磐線のリダンダンシー」に寄与するとは言えず、現在の状況よりも沿線開発などは期待できるが、その効果は限定的。
- ② 公共交通のサービスレベルの維持・向上という観点から、延伸によって、既存のJR常磐線や路線バスの輸送人員等に与える影響を考慮することが必要。また、社会にとってのプラスマイナスという観点から、費用対効果についても十分に考慮することが必要。
- ③ つくばと水戸の交流拡大を考える場合、水戸方面に直接延伸するのではなく、JR常磐線接続(経由)でも一定の効果が得られる。
- ④ 土浦方面でJR常磐線に接続できれば、茨城空港方面や水戸方面への延伸に期待される効果についても、一定程度得られる。
- ⑤ JR常磐線への接続は、土浦方面が最短かつコストも最小であり、土浦駅にはJR特急も停車。調査過程では、土浦方面のほかに、茨城空港方面や水戸方面における常磐線接続までの延伸効果も示されたが、これらの実現可能性の低さなどを考慮すると、土浦方面以外での接続は現実的ではない。
- ⑥ 地元市町はつくばだけではなく茨城空港を含めた交流拡大を求めていることにも留意すべき。
- ⑦ 今後の県勢発展を考えるうえで茨城空港の将来性は考慮するべきであるが、期待される将来の姿と現況とのギャップが大きく、現状では十分な実現可能性があるとは言い切れない。
- ⑧ 今後、茨城空港を取り巻く状況が変化した場合に、改めて効果とコストのバランスを考慮した空港アクセスの在り方を議論すべき。



延伸によって得られる効果と事業可能性やコストのバランスなどを考慮すると、県総合計画に位置付けられている4方面案の中では、**土浦方面への延伸が最善**